

## 「おばあちゃんの煮うどん」

西村 希結にしむら しみ

「おはよう。今日のお昼ご飯は何がいい。」と、毎日私に話しかけるおばあちゃん。これがおばあちゃんの朝のあいさつになっています。

「うーん。煮うどんがいいな。」

私は毎日こう答えます。なぜなら、おばあちゃんの煮うどんは世界一おいしいからです。おばあちゃんは、

「本当にそれでいいの。」  
と、心配そうに聞きますが、私は、

「うん。」

と元気に答えます。

私は、お父さんとお母さんが仕事で会社に行っているので、夏休みや冬休みなど長い休みのときは、朝からおじいちゃんとおばあちゃんの家に行って、朝ご飯もお昼ご飯も作ってもらっています。朝ご飯もまだ食べていないのにお昼ご飯のことを聞かれるけど、私は迷わず、おばあちゃんが作ってくれる煮うどんを食べたいのです。この夏休み、どんなに暑くてもせん風機の風を体いっぱいに当てながら、毎日のように煮うどんを食べています。そのくらい、私は大好きです。

ある日、おじいちゃんの心ぞうの定期検査に、おばあちゃんといっしょに行きました。おじいちゃんを待っている間、お

ばあちゃんとお昼ご飯の話になりました。

「今日は、おじいちゃんの病院に付き合ってくれたから、何かおいしいもの食べて行こう。何が食べたい。」

と、おばあちゃん。私は迷わず、

「煮うどん。」

と、答えました。おばあちゃんは

「何でもいんだよ。」

と、また心配そうに言いました。でも、私が食べたおいしいものは、やっぱりおばあちゃんが作ってくれる煮うどんなのです。

おばあちゃんは、私を気がつかないいつも煮うどんがいいと言っているのかな暑いのに、煮うどんでもいいのかなと心配していたと、お母さんから聞きました。それを聞いて、私ははっとしました。おばあちゃんに、ちゃんと自分の気持ちや感しやの気持ちを伝えていなかっただなあと。だから、おばあちゃんはいつとも心配そうに聞いていたんだなあと気付きました。はずかしがり屋な私は、おばあちゃんが作ってくれる煮うどんが大好き这件事情を伝えられていなかったので。

今すぐ、おばあちゃんに伝えよう。

「おばあちゃんが作ってくれる煮うどんは、世界一おいしいよ。作ってくれてありがとう。」って。